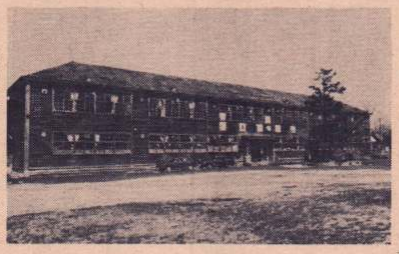
昭和43年3月1日第3種郵便物認可

長木小学校を全面改築

総事業費4億8,800万円で56年度完成をめざす

55年度で校舎を完成
来年度は体育館を建設

市では、学校の新改築や地区公民館の新設整備など、文教施設の充実に積極的に取り組んでいます。現在は、第一中学校の新築事業が進められていますが、昨年度で全ての建物工事を完成、あとはグラウンドの整備工事を残すだけとなったことから、今年度は、校舎のいたみが最も著しい長木小学校の改築工事に着手することにし、三月定例市議会の議決をもって工事請負契約が結ばれ、今月から工事が開始されることになりました。


全面改築される長木小学校

現在の長木小学校校舎は、大正十三年に建てられた本校舎、それに、昭和四十七年に第三中学校と統合して、東中学校に移転した長木中学校校舎も転用してきていますが、本校舎、転用校舎ともこれまで数回にわたり改築、改良を行ってきているものの、建築後それぞれ五十年、三十年以上を経過していることから、そのいたみは著しくなっています。

市では、昭和五十三年十一月に県の技術職員に依頼して、木造の学校の耐力度調査を行いました。この結果、危険度の最も高かったのが長木小学校でしたこれを点数で表わしますと、一万点を満点として、同校は三千七百五十七点から五千三百点という数字がでています。

四千五百点以下が危険校舎として扱われ、その改築には国から三分の一の補助を受けることができますが、昭和五十三年度から、豪雪地帯に対する特例措置として暫定的に五千五百点まで認められることになったことから、今回の改築に踏み切ったものです。

この改築事業は、総事業費が約四億八千八百万円で、五十四年度から五十六年度までの三カ年事業となっており、五十四年度で地質調査と基本設計を終え五十五年度で校舎を建設、そして五十六年度には体育館の建設に取りかかる計画になっています。

今年度に建設される校舎は、鉄筋コンクリート造三階建で、延面積千三百十三平方㍍の普通教室棟と、千八百八十平方㍍の特別教室棟の二棟です。

この建物工事は、指名競争入札の結果、二億九千六百五十万円で株式会社大成工務店（近藤専悦代表取締役）に落札、金額が九千万円を超えることから、三月定例市議会の議決を経て、工事請負契約が結ばれました。

また、電気設備工事は、三千三百五十万円で奥羽電設株式会社（川井忠治代表取締役）が、暖房給排水設備工事は、三千二百八十八万円で大滝施設工業株式会社（伊藤賢三代表取締役）がそれぞれ担当することになっています。

新校舎の建設地は、現校舎東側、旧長木中学校グラウンドで完成は今年十二月十五日の予定になっています。

市内には現在、小学校十四校中学校十校がありますが、同校が完成すると、鉄筋コンクリート造の学校は、小中学校ともちでは今後も順次古い校舎の新改築を進めていく計画です。

市役所の電話番号が 49―3111 に変わりました

24年の歴史にピリオド
上川沿中で廃校式を挙行

上川沿中学校の廃校式が、三月十三日に同校体育館で行われ創立以来二十四年にわたる校史が閉じられました。

同校は、昭和三十一年四月に創立され、その後生徒数が百人を超えたこともありましたが、年々過疎化が進み生徒数が減少してきていることから、今月一日をもって、第一中学校と統合することになっていたもので、今年度卒業の十人が同校最後の卒業生となり、在校生二十人は第一中学校へ転入となったものです。

当日の廃校式は、在校生や同窓生、それに畠山市長、月居教育長や関係者多数が出席しておごそかなふん囲気の中で午前十一時に開式されました。

式は畠山市長の式辞に始まり学校長やPTA会長のあいさつそして在校生代表のあいさつや全員による校歌の斉唱へと進むと、在校生たちは目に涙を浮べ感無量といった表情、同窓生や同校関係者にもなごり惜しさをかくせぬ様子が漂う中で式を終了しました。

上川沿中の廃校式

大館市史のご購読を！

市では、市制施行二十周年を記念して、昭和四十五年から大館市史編さん事業をすすめていますが、これまでに全五巻のうち、第一巻「原始、古代、中世編」と第二巻「近世編」が刊行しています。

いずれも刊行と同時に、市広報や新聞などで皆さんにお知らせし、購読希望の方に頒布しましたが、現在なお若干の在庫があることから、市史編さん委員会では、皆さんへのご購入を呼びかけています。

本の内容は、第一巻は縄文弥生時代及び古代、中世の大館地方の風土と文化について、また、第二巻は佐竹氏の秋田移封後の当地方の政治、産業文化などとなっています。

頒布価格は、第一巻が三千八百円、第二巻が三千四百円です。

お申し込みは、大館市役所内「大館市史編さん委員会」（☎43―0706）へどうぞ！

刊行なった市史第一・二巻

市長の対話ノート

さあ、新年度、とは言っても市民のみなさんからすればあまりピントこないでしょうが、私たちからすれば正月を迎える以上に重要なこと、市民生活にとっても同じで、年度が変ることは衣替えで、新しい施策と予算執行が始まるのです。

門出を祝す

三月はそれぞれの学校の卒業式、日程の関係上限られた学校しか祝辞をさし上げることが出来なかったことをお許しください。

それぞれ進学又は社会に巣立つことになった皆さんに心からお祝い申し上げます。これまでの延長ではなく、一つの区切りが出来たことですし新しい任務のはじまりであるのです。

ご両親の、そして先生や社会の期待に応えるべく、ベストをつくしていただきたいと存じます。

環状バイパス素案成る

交通渋滞が年々著しくなって騒音公害ともなり、交通事故の心配、災害時の不安などで大変ご不便をおかけしております。

一日も早くこの解決を図るべく、関係方面に働きかけ、協議を重ねてまいりましたところ、七号線西バイパスは国、一〇三号線南バイパスは県、東バイパスは市で行い、おそくとも東北縦貫道十和田インターが完成するまでに実現したいと考え、市民のみなさんと共に頑張って参りたいと思います。

上川沿中の廃校に思う

二十四年間築き育てて来た輝しい歴史と伝統に別れを告げることは、関係者にとってどんな思いがするでしょう。

それをやり遂げたのですから頭が下るばかりです。

そこには、過去も伝統も大切であるが、それよりも将来と子供の教育の重要性という大局を選択していただいたものだと思います。

とかく「将来も大切だが現状はもっと大切だ」「子供もそうだが、その親の心情を無視されたのでは困る」こんな世論を見事に克服したものです大いに学ぶべきではないでしょうか。

春だ！いぶきだ

さあ四月、じっと耐えしのんだ長い冬から植物が一斉に若芽を出す時。まして私たちは人間です。意志も、感情も協力も出来ます。

時も八〇年代の始まり、困難も多いでしょうが、みんなで協力すれば解決が出来ないわけはないと存じます。

〝やりましょう〟

畠山健治郎

水田利用再編対策へのご理解とご協力を

秋田県知事　佐々木　喜久治

大館市の皆様、日頃県政の推進にあたっては、格別のご協力を賜わり、厚くお礼申しあげます。

さて、水田利用再編対策については、農家をはじめ関係の皆様のご協力のもと、目標を上回る実績を得られましたが、米の過剰は益々厳しくなっていることから、国では、五十五年度の米の需給計画を改訂し、転作等目標面積を更に増大しました。

本県としては、国が定めた一期三年間固定という原則のもとに、農家の皆様とともにこれに取り組んでまいりました。したがってこの原則を変更することは、こうした信頼関係を損うことになると考え、原則を貫くよう国に強く要望してきましたがこれが受け入れられなかったことは誠に残念でなりません。これまで協力された農家をはじめ関係の皆様に対し、本当に申し訳なく存じております。

この問題については、市町村農業団体等のご意見をうけたまわる一方、県水田利用再編対推策進本部委員会にもはかり、あらゆる角度から慎重に検討を重ねました。その結果、米作農家の基本である食管制度を守るため、米産県なるが故にこれに対応せざるを得ないとの判断に立ったのであります。

今後は国に対して、食糧需給の長期見通しとこれをふまえた農業の基本政策の早期確立を要望するとともに、県としても排水改良や転作条件を整備するための施策等について、さらに一層努力してまいりたいと存じております。

どうか農家をはじめ関係の皆様には、この間の事情をご理解いただき、水田利用再編対策にご協力賜わるようお願いします。